



うま やかた てん き せん 馬の館の伝馬船

☆都井岬四季報通信☆

都井岬ビジターセンター・企画編集

2012年1月発行 Vol.19

電話・FAX:0987-76-1546

宮崎県串間市大字大納42-1

月曜休館日 開館時間 9:00~17:15

魅力探訪

春を呼ぶ野焼き

都井岬で、今年も野焼きが行われました！岬馬を保護している都井御崎牧組合の活動によって、毎年1月下旬～2月上旬頃に実施されている伝統作業。この活動がなければ、都井岬は馬の食べない植物がはびこり、藪になり、やがて森へと遷移してしまうでしょう。都井岬の草原は、芝刈りをする岬馬と、不食草を除去する里山の人々の共同作業によって、何百年も管理されてきた歴史があるのです。この景観保護には、馬と人間の両方が必要です。



咲いた咲いた 季節の動植物

ヒオウギの芽吹き

野焼きが行われた都井岬の草原で、ヒオウギの芽吹きを見つけました！ヒオウギは8月下旬頃にオレンジの鮮やかな花が咲くアヤメ科の植物です。名前の由来は、扇状の葉が檜扇を連想させるから。いまの時期、焼けた草原には緑が少ないのですが、この新芽は、すでにヒオウギの面影がありますね。

春はもうすぐそこです！



野

生馬の岬で

働いている地元スタッフが旬の話題をお届けします☆
四季彩々の表情をもつ岬を身近な目線からお伝えする
都井岬四季報です

馬なり日々の

スタッフコラム

平成24年は古事記編纂1300周年の節目を迎え、さらに平成32年には、日本書紀が編纂1300周年を迎えることから、『神話の国』である宮崎県では、これを契機としたイベントを県内各所で企画してアピールしてゆく方針です！日本書紀といえば、推古天皇が『馬ならば日向の駒』と詠んだように古代から宮崎は馬の産地として知名度が高かったようです。岬馬は、都井岬にカンヅメにされて、使役されずに野生化して残されたことから、古代の乗系馬（農耕馬ではなく乗るための馬）の体型が変わらずに残されている、とも言われています。現代の日本で、古代馬に最も近い体型を残すのは、岬馬だと考えられます。この機会に、古代馬の岬として発信できないか期待しています。

館の掲示板

～ビジターセンター便り～

ビジターセンターは、春からはガイド育成講座を修了したガイド人が配属され、野生馬ガイドの基地となります！都井岬は『箱物でない自然博物館』！資料館で予備知識を得た後は、野外で本物の素材を体感しに行きましょう！これから春になれば、子馬が生まれ、オキナグサが咲き、オスの闘争が始まり、都井岬が一番面白い季節を迎えます。ここはただ眺めるだけではもったいない！ぜひガイド人の野生馬ガイドを聞いて下さい！

